

けいれん

- 熱性けいれんの経験があり、今回も発熱に伴って5分以内のけいれんが起こったが、その後意識がもどって呼びかけに反応するようになった
- 高熱になり、体がピクッと震えたが、意識はある(ふるえ)

緑

- けいれんは数分で止まり、その後呼吸はしっかりしているが、意識がもどっているか心配
- けいれんの仕方が体の左右で明らかに差が見られた
- 熱が38℃もないのにけいれんした
- 初めてけいれんが起きた

黄

- けいれんが5分以上続いている
- けいれんに伴って口から泡を吹いたり、呼吸がゼーゼーしている
- けいれんが断続的に2回以上あった
- けいれんは止まったが、何度呼びかけても意識がもどらない

赤



日中に
かかりつけ医へ



夜間でも
相談または受診



救急車を呼ぶ

熱性けいれん

熱の上昇期に突然、意識がなくなり全身が硬直してピクピク震える発作が起こることがあります。これが熱性けいれんで、生後6か月頃から見られ、1歳児をピークに5～6歳までのこどもに起こります。熱性けいれんは、通常、良性の病気の後遺症もなく年齢とともに消失します。

熱性けいれんは5分以内で止まることが多いですが、「けいれん重積」と言って15分以上けいれんが持続して、静脈注射でしか止められないこともあります。呼吸も不規則になりますがすぐに生命が危なくなることはありません。

熱性けいれん時の処置

- けいれんをすぐに止めることはできないので、呼吸をしやすいように服を緩めましょう。
- けいれん時はよく吐くので、それに備え、吐物を吸い込まないように顔や体を横に向けましょう。
- けいれんの最中に指や割り箸など口にもものを入れてはいけません。
- けいれんの持続時間、体温を見ましょう。そして、右半身、左半身でけいれんのしかたに差がないかをよく観察しましょう。
- あらかじめ、けいれん時にけいれん止めの座薬を指示されている場合は座薬を肛門に入れてください。

無熱性けいれん

熱がないのに、突然けいれんが起こるのは、重大な原因がある可能性があります。様々なてんかん、脳出血や脳梗塞、脳腫瘍、中毒、ヒステリーなど多様です。

左のページの表に従い、けいれんが長くつづく時や意識がもどらないときは救急受診が必要です。